

造血器腫瘍の臨床検体を用いた遺伝子プロファイリング・免疫応答の解明と 臨床的意義に関する研究

1. 研究の対象

2001年4月1日以降に当院で造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性疾患など）の診断のため生検、骨髄検査を受けられた方

2. 研究目的・方法

本研究の主な対象である造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性疾患など）では、新規薬剤の導入や造血幹細胞移植の適応拡大、支持療法の進歩により、その治療成績は改善してきました。しかし初回化学療法に抵抗性の患者さんや再発患者さんの予後は依然として不良です。近年、がん免疫療法の進歩が著しく、免疫チェックポイント阻害剤などによる免疫療法は様々ながん腫に対して強力かつ持続的な腫瘍の縮小を可能にすることが報告されています。この研究においては、造血器腫瘍患者さん個々の免疫状態および遺伝子を経時的に検索し、将来的には抗がん剤・放射線療法・移植治療・免疫療法をどのように選択し組み合わせることが、最も有用であるかを明らかにすることを目的としています。

研究期間：2018年研究開始後から2022年3月31日

なお、将来研究内容が追加・変更になる可能性があります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

研究に用いる試料：血液および骨髄液、腫瘍組織、体腔液（胸水、腹水等）や尿や便の一部

研究に用いる情報：カルテ番号、生年月日、病歴、病歴、治療歴

4. 外部への試料・情報の提供

試料と情報は当院の研究室で保存または国立がん研究センターに搬送され解析されます。搬送の際、個人を特定できる情報はすべて削除されます。主な解析は国立がん研究センターで行いますが、一部については検体を東京大学、東京医科大学、東北大学、名古屋大学、理化学研究所、京都大学、大阪大学、久留米大学、タカラバイオ株式会社、ハプロファーマ株式会社、マクロジェンジャパン、ジェノダイブファーマ株式会社、ADAPTIVE BIOTECHNOLOGIES社（アメリカ）、ヒューマンメタボロームテクノロジー株式会社に送付して行います。共同研究施設である国立がん研究センター先端医療開発センター免疫トランスレーショナルリサーチ分野へ搬送され解析されます。

5. 研究組織

千葉大学医学部附属病院 血液内科 診療教授 塚田恵美子

国立がん研究センター 先端医療開発センター 免疫トランスレーショナルリサーチ分野 分野長 西川博嘉

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者・代表者：

千葉大学医学部附属病院 血液内科 診療教授 塚田恵美子

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

電話：043-222-7171 内線 5259（血液内科）

国立がん研究センター東病院 先端医療開発センター 免疫トランスレーショナルリサーチ分野 分野長 西川博嘉

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

電話：04-7133-1111（代）